第４回全理事会

日　時　平成19年10月6日（土）16：30～17：27

場　所　岩見沢 平安閣　3階・丹頂の間

出席者　長瀬会長、三宅・宮本・畑各副会長、山本・北野・三戸・原田・藤井・藤原・深澤・西里・橋本各常任理事、上埜・上西・山・鈴木・古屋・吉田各理事、水元・中村各監事、飯塚顧問、伊藤議長、塩野副議長、河西・山光日医代議員。（事務局：菊田事務局次長ほか12名）

報告事項

１．第2回都道府県医師会長協議会[9月18日（火）]について（長瀬会長）

特定健診･保健指導について質疑が集中し、料金、集合契約などについて4府県医師会から状況の把握とメーリングなどによる情報交換の場の設定を望む発言があった。そのほか、新型インフルエンザ対策ではタミフルの備蓄費用と保存期間の合理性について､また､日医の医療政策の実現に向けての行動や医療界に対する分断政策への対応について発言があった。日医執行部の答弁など詳細は日医ニュースを参照願いたい。

２．日医各委員会報告

⑴　医師会共同利用施設検討委員会[8月22日（水）]について（山理事）

報告書作成に向けた委員会の運営のあり方について、篠原委員長からたたき台が示され、年内に報告書を作成することになった。また、来る12月15日（土）日医会館で開催する「平成19年度全国医師会共同利用施設（臨時）総会」のプログラム（案）について協議した。なお、本総会では「医師会共同利用医療施設の将来展望」と題しパネルディスカッションを予定しており、そこで小職がパネリストとして「医師会病院について」発表することになった。

⑵　国民生活安全対策委員会[9月12日（水)]について（増田理事）

（資料配付により報告）

⑶　有床診療所に関する検討委員会[9月19日（水)]について（西池理事）

（資料配付により報告）

⑷　日医総研戦略会議[9月20日（木)]について（河西委員）

「日医総研の今後の研究活動と方向性について」を主題として､「医療改革とＩＨＮ(Integrated Healthcare Network)」「研究員管理の現状と問題点」についてそれぞれ報告を受けたのち意見交換を行った。

⑸　母子保健検討委員会[9月27日（木)]について（城理事）

平成19年度の母子保健講習会の開催テーマならびにプログラムについての検討のほか､「子ども支援日本医師会宣言」の具体的方策等について検討を行った。

⑹　会員の倫理・資質向上委員会[10月3日（水)]について（上埜理事）

会長諮問である『医師の職業倫理指針』の見直しについて､「一般的職業倫理」(第1)､「終末期医療の倫理」(第2)､「医学研究の倫理」(第3)､「生殖医療の倫理」(第4)のパートに分けて4つの分科会で検討を行い、最終各案を統合して全体委員会で検討を行っている。

３．中央情勢報告（懇談で話題提供として報告）

全理事会の議事終了後、引き続き「空知ブロック内各郡市医師会役員等との懇談」を開催し、藤原常任理事から「中央情勢報告」、三戸常任理事から｢特定健診･特定保健指導｣､宮本副会長から「北海道医療対策協議会」についてそれぞれ話題提供として説明したのち意見交換を行った。

４．その他

⑴　北海道医報について（藤原常任理事）

来年1月号から表紙を写真から北海道にちなんだ画家の絵画に変更することについて報告、承認された。

協議事項

第１号　平成19年度北海道医師会表彰に関する件（深澤常任理事）

〈決　定〉

表彰規程にもとづく会員114名、役員･代議員1名、Ａ会員の病院・診療所従業員138名、国公立等医療機関従業員96名、医師会職員11名､合計360名について表彰選考委員会での選考結果にもとづき被表彰者と決定。

第２号　平成19年度道医会費追加減免申請に関する件（深澤常任理事）

〈決　定〉

道医会費減免申請者、研修医１名、免除額8,000円の免除を承認。

第３号　理事提案事項

上埜理事から「北海道医師会定款施行規則第23条」の無投票当選の取扱いについて発言があり、今後検討することとなった。

道総医協関連事項（三宅副会長）

１．道総医協開催状況について

⑴　第1回計画特別委員会［9月21日（金）道庁別館］（宮本副会長）

宮本委員長（当会副会長）、前沢副委員長を選出。新しい北海道保健医療福祉計画（仮称）の策定につき検討した。

⑵　地域医療専門委員会周産期医療小委員会［9月26日（水）道庁別館］（藤井常任理事）

水上委員長、服部副委員長を選出。北海道周産期医療システム整備計画（見直し計画）素案につき意見交換した。

第14回常任理事会

日　時　平成19年10月9日（火）18：36～20：05

場　所　北海道医師会館9階・理事会室

出席者　長瀬会長、三宅・宮本各副会長、榊山・山本・北野・渡辺・三戸・小山・目黒・原田・藤井・藤原・深澤･直江･橋本各常任理事､高木･水元・中村各監事
（事務局：島影事務局長ほか12名）

協議事項

第１号　総医協計画特別委員会委員の推薦に関する件（深澤常任理事）

〈決　定〉

医療政策部長で精神科医の直江常任理事を推薦する。

第２号　北海道臨床開発機構運営委員会委員の推薦に関する件（深澤常任理事）

〈決　定〉

長瀬会長を推薦する。

第３号　北海道精神保健推進協会理事の推薦に関する件（深澤常任理事）

〈決　定〉

宮本副会長を推薦する。

第４号　日本医師会生涯教育講座等の認定に関する件（渡辺常任理事）

〈決　定〉

申請のあった日医生涯教育講座51件、道医認定生涯教育講座41件の合計92件を承認する。

第５号　その他（深澤常任理事）

〈決　定〉

先の理事会で決定した今年度北海道医師会表彰被表彰者の内､1名の方の表彰を現時点では不適当と判断し保留する。

報告事項

１．患者接遇に関する研修会［9月13日（木）･北見市、他3件］について（橋本常任理事）

本年度は、9月13日から10月5日にかけて、北見市・帯広市（十勝医師会）・室蘭市・旭川市の4ヵ所で開催し、受講者は合計840名であった。講師は昨年度と同様、設楽幸子氏にお願いし、医療を受ける側、行う側の両方の立場から、講師自身の経験などを交えて講演され、好評であった。

２．第3回教職員の指導力向上制度に係る「新たな認定基準の在り方検討委員会」［9月26日（水）］について（直江常任理事）

前回に引き続き、認定の基準等、研修期間･方法、研修後の措置について協議を行った。

３．日本医師会医療事故防止研修会［9月27日（木）］について（山本常任理事）

木下常任理事の司会により開会、唐澤会長挨拶（宝住副会長代読）の後､「医師に求められる医療安全対策～日本医師会の取組み～」「実践的リスクマネジメント～実例の紹介を

通して～」「事故事例から学ぶ再発防止」「刑事訴訟の現場から見た医療事故防止策」の研修が行われた。

4．第87回北海道医学大会総会・平成19年度北海道医師会賞贈呈式[9月29日（土）]について（渡辺常任理事）

9月29日（土）午後3時から札幌グランドホテルで開催した。参加者は137名。各科トピックス4題、続いて宮内庁皇室医務主管・日本学術会議会長金澤一郎氏による特別講演「日本の医療を考える」、その後、北海道医師会賞・北海道知事賞の贈呈式、受賞者祝賀会が行われた。もっと出席していただけるように、次年度以降検討することとした。

5．日医生涯教育講座「第6回BLS・気道確保とAED」[10月8日（月）]について

（渡辺常任理事）

標記講座を当会館で開講し、受講者46名を対象に行った。札医大・浅井教授の挨拶、同大・今泉准教授よりBLSおよびAEDの概説が行われた後、引き続いて各講師の指導により、気道確保・挿管、モニター・除細動などの実習が行われた。11月に今回の参加者を含めた既受講者を対象に、ACLS講習会を開催する予定である。

6．第2回医療政策等検討委員会[10月8日（月）]について（直江常任理事）

北海道保健福祉医療計画・北海道医療計画および北海道道州特区提案検討委員会による緊急提案項目のうち医療分野の知事への諮問について、北海道保健福祉部、同企画振興部地域主権局から説明を受けた。出席の委員には、小職から、各地の地域保健医療福祉推進協議会（地推協）において積極的に意見を具申するよう要請した。宮本副会長は、北海道医療対策協議会の自治体病院等の広域化・連携構想について、協議会が示した「たたき台」をもとに地域の実態に即したものとなるよう、地域が主体となって検討していただくものであると強調した。委員からは圏域内で市町村間における調整や市町村合併が行われた場合の対応に懸念を示す意見が出た。

7．日医各委員会報告

⑴　社会保険診療報酬検討委員会[10月3日（水）]について（榊山常任理事）

諮問⑴「診療報酬改定の影響とその対応－平成18年4月改定－」の答申書作成に関し、詰めの協議を行った。また、諮問⑵「現在の診療報酬における問題点について」を項目別に意見交換した。

8．外部各委員会報告

⑴　第2回北海道看護職員確保モデル事業検討会[9月26日（水）]について

（北野常任理事）

潜在看護職員の再就業促進に係る研修事業の企画立案に関し、平成19年度未就業看護職員の臨床実務研修開催要綱および臨床実務研修プログラムや、研修の周知方法、受講者の決定と研修受け入れ先の調整のこと、等について検討した。

⑵　第1回急性心筋梗塞の医療連携に関する専門家懇談会[10月1日（月）]について

（橋本常任理事）

医療圏域別の受療動向（ただし虚血性心疾患のデータのみで急性心筋梗塞の実態が不明）、救護・急性期の目標設定の考え方、リハビリテーション、地域連携クリティカルパス等について検討した。

⑶　第1回北海道後期高齢者医療広域連合運営懇話会[10月3日（水）]について

（長瀬会長）

来年4月施行に向けて、11月に定例議会で決定される北海道としての広域計画・保険料条例・保健事業について、各団体の意見を聴取して議会に反映させるために懇話会が設置された。年齢シフトによるスムーズな保険者異動（市町村⇒高齢者広域連合）、所得の把握、国民への周知など種々意見が述べられた。次回の懇話会は、10月29日（月）に開催され、今期はこの2回で終了し、次期からは、正式な協議会になることが決定している。

9．その他

⑴　北海道議会における「日本の医療と国民の安心を守るための意見書」採択について（長瀬会長）

日本の医療を守る国民運動の一環として、かねてより首題意見書の採択を道議会に対し要請してきた。このたび第3回定例会において、5月に開催した緊急道民集会の決議文と同趣旨の意見書が採択され、総理・財務・厚労・少子化担当各大臣、衆参両院議長に道議会議長名で送られた。

⑵　**平成19年度病院開設等計画書の提出期間について（直江常任理事）**

あらたな医療計画が20年4月から実施されることから、通常3月1日から3月31日までの提出期間を本年度に限り「明年1月1日から2月15日まで」とすることが道において決定された。

第15回常任理事会

日　時　平成19年10月23日（火）18：04～20：09

場　所　北海道医師会館9階・理事会室

出席者　長瀬会長、三宅・宮本・畑各副会長、榊山・山本・北野・渡辺・三戸・目黒・原田・藤井・藤原・深澤・西里・直江・橋本各常任理事、高木・水元各監事
（事務局：島影事務局長ほか11名）

協議事項

第１号　日本医師会認定産業医の認定申請に関する件（西里常任理事）

〈決　定〉

認定要件を満たした更新190名の申請を承認し、日医へ推薦する。

第２号　日本医師会認定健康スポーツ医の認定申請に関する件（西里常任理事）

〈決　定〉

認定要件を満たした更新17名の申請を承認し、日医へ推薦する。

第３号　日本医師会生涯教育講座等の認定に関する件（渡辺常任理事）

〈決　定〉

申請のあった日医生涯教育講座58件、道医認定生涯教育講座43件、合計101件を承認する。

第４号　その他

⑴　**11月行事予定に関する件（事務局）**

〈決　定〉

提案どおり承認決定。

報告事項

１．日医標準レセプトソフト(ORCAプロジェクト)普及説明会[9月29日（土）･函館市、10月12日（金）･小樽市、10月20日（土）･旭川市]について（藤原・橋本常任理事）

日医標準レセプトソフトの本道での普及促進を図るべく、函館市・小樽市・旭川市において、それぞれの医師会と当会との共催により説明会を開催した。講演では、函館と小樽は日医総研主任研究員・上野智明氏が、旭川は同主任研究員･秋元 宏氏がORCAプロジェクトの取り組み状況と日レセの解説を、また、各会場の地元で日レセを使用している会員に導入体験をそれぞれお話しいただいた。さらに、道内をサポート地域とする日医総研日医ＩＴ認定サポート事業所による日レセならびに電子カルテのデモンストレーション・展示を行った。参加者数は、函館が42名（24医療機関）、小樽が48名（32医療機関）、旭川が17名（14医療機関）であった。

２．全国医師会勤務医部会連絡協議会[10月13日（土）･那覇市]について（目黒常任理事）

沖縄県医師会の担当で、「高めよう勤務医の情熱、広げよう勤務医の未来」をメインテーマに開催された。午前は、日医・唐澤会長による特別講演、日医勤務医委員会報告、沖縄県医師会勤務医アンケート調査報告が行われ、午後からは、特別講演2題のほか、「病院の機能分化について－勤務医の現状をふまえて－」をテーマにシンポジウムが行われた。参加者は約340名であった。なお、次回は、平成20年11月22日（土）千葉県において開催の予定である。

３．第35回東北･北海道医師会共同利用施設連絡協議会[10月13日（土）～14日（日）･仙台市]について（北野常任理事）

「医師会共同利用施設の活性化に向けて」をメインテーマに開催された。当日、宮城県医師会・師会長の挨拶、日医・唐澤会長の祝辞の後、演題発表が行われ、本道からは「釧路市救急医療体制の崩壊と再構築－医師会病院の活性化に向けて－」について釧路市医師会病院の浅川院長より報告があった。また、日医・内田常任理事の基調講演、東北大学・久道茂名誉教授による特別講演がそれぞれ行われた。なお、前日には、仙台市医療センター仙台オープン病院、宮城県医師会健康センターの施設を見学した。次回（平成21年度）は、山形県医師会の当番で開催される予定である。

４．第2回学校保健推進委員会[10月13日(土)･士別市]について（三戸常任理事）

学校保健推進委員会特別講演会として委員会を開催し、日本医師会常任理事の内田健夫先生に、「最近の学校保健をめぐる諸情勢について」と題し、ご講演をいただいた。参加者は日本学校保健会・内藤昭三専務理事、北海道教育委員会・吉田洋一教育長、上川北部医師会・百瀬顧問、学校保健推進委員会委員ほか、合わせて25名であった。

5．第56回北海道学校保健研究大会上川(士別)大会[10月14日（日）・士別市]について（三戸常任理事）

士別市民文化センターほか1会場で開催され、開会式後に行われた学校保健功労者表彰式では、学校医26名、学校歯科医34名、学校薬剤師15名、教職員11名が表彰され、受賞者を代表して札幌市学校医の鈴木寛一先生より謝辞が述べられた。

6．特定健診・特定保健指導に関する打合せ[10月15日（月)] について（三戸常任理事）

道内の国保における準備体制、特定健診・特定保健指導機関の届出等につき、道保健福祉部より説明を受け、集合契約等を含めた当会の今後の対応について検討を行い、18日に開催される北海道保険者協議会の場で、紙媒体による報告の是非、料金の設定等申し入れを行うこととした。

7．第35回日本救急医学会総会・学術集会[10月16日（火）～18日（木）・大阪市]について（目黒常任理事）

大阪大学大学院医学系研究科救急医学の杉本壽教授が会長となり、「高山は仰ぐべく、大道は行くべし」をテーマに開催された。会長講演、特別講演、教育講演、シンポジウム、パネルディスカッション、ワークショップなどが行われ、約2,800名の参加があった。次回は平成20年10月13日（月）～15日（水）札幌市において開催の予定である。

8．特定健診・特定保健指導に係る説明会[10月17日（水）・苫小牧市]について（三戸常任理事）

制度の概要について、地元保健所長から説明をいただいた後、私から医師会、医療機関の役割と、今後の対応等について説明を行った。質疑応答では実施指導者の資格の問題や、委託基準について活発に意見交換が行われた。

9．第46回十四大都市医師会連絡協議会[10月20日（土）～21日（日）・神戸市]について（畑副会長、山本・深澤各常任理事）

第1日目に「生活習慣病対策としての特定健診・特定保健指導への対応」、「大都市におけるかかりつけ医の役割」、「広報活動の新しい取り組み」の3分科会、第2日目に北里大学大学院教授・東京大学名誉教授の養老孟司先生の「都市化が死生観に与える影響」と題する特別講演が行われた。

10．第13回日本保育園保健学会[10月20日（土）～21日（日）・北九州市]について（三戸常任理事）

「いのちをつなぐ　保育保健の未来（あした）に向けて」をメインテーマに開催された。1日目はミニシンポジウム、基調講演、特別講演2題が行われ、終了後に交流会が開催された。2日目は、一般演題25題（北海道からは、北海道保育園保健協議会、札幌市乳幼児園医協議会より各1題)、会長講演、会頭講演、ランチョンセミナー3題、招待講演、市民公開フォーラムが行われた。次回は、平成20年10月25日（土)・26日（日）東京都にて開催予定である。

11．日医各委員会報告

⑴　健康スポーツ医学委員会[10月11日（木)] について（畑副会長）

健康スポーツ医再研修会の日程、座長を決定した。また、委員会答申骨子案についてフリーディスカッションを行い、次回で再度検討する。

⑵　労災・自賠責委員会[10月17日（水)] について（目黒常任理事）

会長諮問（医療保険制度下の労災保険、自賠責保険のあり方）に対する答申案について協議・検討を行った。労災保険に関しては「労災独自の診療報酬体系の構築」「労災補償のあり方」「成人病と労災のかかわり（特定健診・特定保健指導)」「労災かくし」について協議・検討した。また自賠責保険に関しては「新基準の採用状況」「自賠責保険支払状況のアンケート調査」などについて報告を受け、それらについて意見交換した。

⑶　介護保険委員会[10月18日（木)] について（原田常任理事）

天本常任理事より、社会保障審議会介護給付費分科会第6回介護施設等の在り

方に関する委員会および第43回同分科会において検討された医療機能強化型介護老人保健施設、小規模介護老人保健施設について報告が行われた。とくに医療機能強化型老健の介護報酬改定の基本的な考え方が示され検討を行ったこと、「医療機能強化型」の名称変更を強く要望した結果、来年初めに正式名称を決定することなどの報告があった。また、地域ケアへの取り組みなど各委員からの提出議題を議論した後、会長諮問に対する取りまとめについて検討を行った結果、次回第10回委員会および第11回委員会でまとめていくこととなった。

⑷ 病院委員会[10月19日（金）]について

（北野常任理事）

これまで十分に検討されなかった1)精神科医療の現状と今後の課題、2) 後期高齢者医療制度における病院の役割、3) がん診療連携拠点病院の指定等、各分野の連携に関する問題、などについて協議した。その後、フリートーキングが行われ、各委員から種々の問題点が出された。なお、今後8項目につき報告書としてまとめることとした。

12. 外部各委員会報告

⑴ 第1回糖尿病の医療連携に関する専門家懇談会[10月9日（火）]について

（畑副会長）

道から医療計画に基づく糖尿病の医療連携体制素案作成に関する説明の後、初期安定期治療、専門治療、急性憎悪時治療、慢性合併症治療という、糖尿病の医療連携について検討した。委員からは、地域連携クリティカルパスについて都市と地域では状況が異なるという意見が出た。次回は「地域における医療連携推進体制の考え方」について取りまとめる。

⑵ 第1回脳卒中の医療連携に関する専門家懇談会[10月11日（木）]について

（藤原常任理事）

北海道全体および圏域別の受療動向について報告を受けた後、救護、急性期、回復期、維持期の現状と課題について協議した。

⑶ 第1回道立特別支援学校等結核対策委員会[10月12日（金）]について

（榊山常任理事）

小職が委員長に、副委員長には道保健福祉部の山口医療参事を選出。協議では、今年度の結核対策対象者8名について協議し、そのうち7名を要受診勧奨者とした。また、次年度から問診票の見直しを行うことも承認された。

⑷ 第3回北海道保険者協議会[10月18日（木）]について（宮本副会長）

特定健診・特定保健指導の集合契約締結や具体的な作業を進めるため、「保険者協議会運営連絡協議会」が設置された。また、未決定であった代表保険者については、健康保険組合連合会（北海道支部）が選出された。代表保険者からは集合契約締結について、道内一円で簡潔に一括で契約できるよう要望があり、診療側からは紙媒体による提供や料金設定等についての説明が行われ、種々意見交換をした。

道総医協関連事項

1．第2回地域保健専門委員会[10月16日（火）]について（畑副会長）

本年度末で指定更新時期を迎える、地域がん診療連携拠点病院8施設を再指定とし厚労省に推薦する。また、北海道がん対策推進計画（仮称）素案（案）については、次回の委員会でまとめることとなった。

2．第2回計画特別委員会[10月18日（木）]について（宮本副会長）

20年度から始まる北海道保健医療福祉計画（仮称）の骨子案について、圏域の一部変更、計画書の構成などにつき検討した。北海道医療計画（仮称）骨子案については、従来の21保健医療福祉圏をほぼ踏襲するが、「医療圏」に名称変更し、地域の現状、4疾病5事業等の医療連携体制の構築、医療の安全確保と医療サービスの向上、地域医療を担う人材の確保と資質の向上、将来の医療提供体制の姿と医療計画による事業の推進などについて章立てすることなどを検討した。